

## ニッポンの革新力 低炭素化の流れに賭け

アーステッドCEO ヘンリック・ポールセン氏

日経新聞 2017.12.21 掲載

デンマークの電力最大手アーステッドは、化石燃料から再生可能エネルギーへ事業の大転換を果たした。ヘンリック・ポールセン最高経営責任者（CEO）に決断の背景を聞いた。

——石油・ガス開発事業を売却しました。

「2012年にCEOになり、年間20億ユーロ（約2600億円）前後を洋上風力発電に投じてきた。ガスと石炭に代えてバイオマスでも熱と電力を作る。23年には石炭火力発電所を停止し、95%を再生エネが占める。化石燃料を使う黒いエネルギーの会社だったのが、ほぼ緑の会社になった」

「営業利益率は2倍になり、大半を洋上風力で稼ぐ。07年に国外で稼いだ利益は12%だったが、現在は75%だ。よりグリーンに高収益に国際的になった」

「洋上風力への投資は未成熟な市場でリスクもあった。大きな賭けだったが、正しかった。毎年100万キロワットの発電所を自らのキャッシュフローで建設できるようになったことが証明している」



——なぜ変革はうまくいったのですか。

「低炭素化の大きなトレンドに沿っていた。洋上風力のコスト競争力は高まり、欧州では事実上、太陽光や陸上風力に匹敵する。今の欧州では石炭やガスの火力発電で稼ぐのは難しい。デンマークは未来のモデルだ」

「政府補助金の削減は収益を圧迫するが、まだ十分な利益を得ている。米国やアジアなどでも巨大な潜在市場があるとみている。日本にも進出したい」

以上